

平成22年度契約工事「公共事業コスト縮減行動計画 2010」の 実施状況について

1 目的と背景

厳しい財政事情が続く中、公共事業を効率的かつ効果的に執行するとともに、適正な価格で良質な社会資本の整備を図ることが必要であり、また、「とちぎ未来開拓プログラム」を着実に推進するため、平成22年7月に「公共事業コスト縮減行動計画 2010」を策定し、全庁あげてコスト縮減に取り組んできました。

2 「公共事業コスト縮減行動計画 2010」のポイント

- (1) 期 間 平成22～26年度(5年間)
- (2) 縮減目標 5分野を対象に、前行動計画(2005)で達成した15%以上(平成16年度の標準的な工事方法や資材が基準)の水準を、5年間維持していきます。
- (3) 5分野の主な内容
 - ① 工事コストの低減 ⇒ 計画・設計の見直しや新技術の採用による低減
 - ② 時間的コストの低減 ⇒ 効率的に工事を実施し整備効果の早期発現
 - ③ ライフサイクルコストの低減 ⇒ 耐久性を向上させ維持管理コストを低減
 - ④ 環境社会におけるコストの低減 ⇒ 現場発生材の再利用や環境への負荷低減
 - ⑤ 効率性向上による長期的コストの低減 ⇒ 工事関係手続きの電子化による低減

3 結果

- (1) 目標15%以上(平成16年度基準)に対し、15.7%のコスト縮減を図りました。
なお、この縮減率は、各執行課所で事業毎に抽出・集計した値です。

行動計画名	行動計画2010(H22～26)				
	H22	H23	H24	H25	H26
計画年度	H22	H23	H24	H25	H26
目標縮減率(%)	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
実施縮減率(%)	15.7				

- (2) 取組にあたり配慮した事項

- ① 品質を確保しながら、より効率的な事業執行に努めました。
- ② 県内経済の下支えや雇用を確保するため、計画的な工事発注と県産品の利用に努めました。
- ③ 施工性や経済性に優れた材料や工法等の新技術活用に努めました。

4 今後の課題と対応

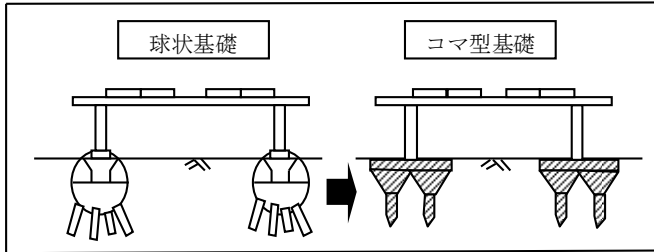
長年のコスト縮減の取組みにより、各担当者にコスト意識が定着していますが、「とちぎ未来開拓プログラム」を推進している中、継続して高いコスト意識を維持しながら、設計や工事執行に取り組むことが必要であります。

5 主な取組事例

① 工事コストの低減

【環境森林部】 計画・設計の見直し

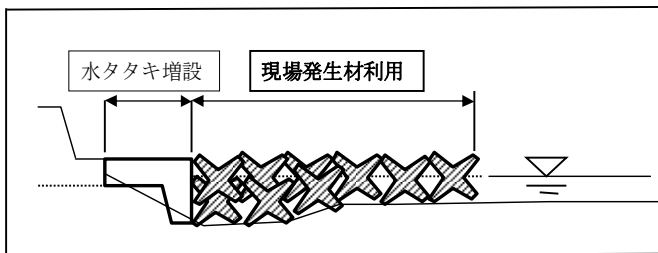
自然公園の木道整備工事において、軟弱地盤に通常使用している球状基礎に変え、同等の効果(支持力)が得られるコマ型基礎を採用したことで、工事コストの縮減が図られました。



(那須塩原市・沼原園地)

【農政部】 計画・設計の見直し

農業用取水堰の改修工事において、堰下流の洗掘を防止する護床工に、現地から発生するコンクリート製の護床ブロックを再利用したことで、工事コストの縮減が図られました。



(栃木市・美田東部頭首工)

【県土整備部】 計画・設計の見直し

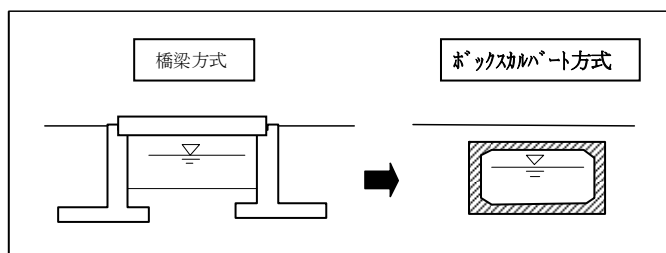
河川の護岸工事において、既設護岸を活かした計画とし、また、既設護床ブロックの再利用や護岸の玉石を現地にて採取したことで、工事コストの縮減が図られました。



(鹿沼市・大芦川)

【県土整備部】 計画・設計の見直し

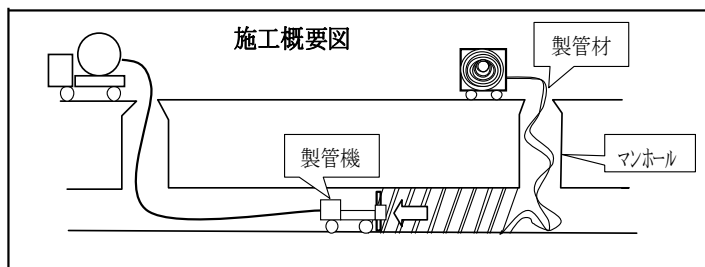
県道の改築工事において、河川幅が狭いことから渡河部の構造をボックスカルバート方式にできたことで、橋梁方式と比較して工事コストの縮減が図られました。



(日光市・鹿沼足尾線)

【県土整備部】 新技術の採用

下水道管の老朽化対策工事において、既設管の内側に帯状の硬質塩化ビニル材で製管し、既設管との隙間にモルタルを充填する新技術を採用したことで、開削工法と比較して工事コストの縮減が図られました。



(日光市・大谷川幹線)

【企業局】 計画・設計の見直し

産業団地の道路改良工事において、現場内から発生したU型側溝や路盤材を再利用したことで、工事コストの縮減が図られました。

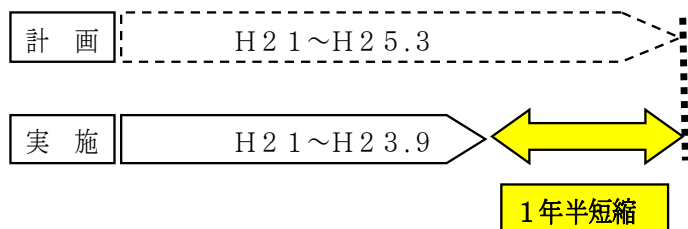


(壬生町・羽生田地区)

② 時間的コストの低減

【県土整備部】 事業の重点化・集中化

急傾斜地崩壊対策事業において、早期整備を要する緊急避難施設があるため、重点的な投資により1年半短縮され、事業効果が早期に得られ時間的コスト縮減が図られました。



(那須町・芦野)

③ ライフサイクルコストの低減

【県土整備部】 新技術の採用

建築の機械設備工事において、受水槽が不要にできる新技術の給水方式を採用したことで、工事コストとライフサイクルコストの縮減が図られました。

(宇都宮市・農業試験場)



④ 環境社会におけるコストの低減

【県土整備部】 建設副産物対策

河川の護岸工事において、現場内で発生した軟弱な土砂を土質改良し盛土に再利用したことで、工事コストの縮減と資源循環が促進できました。



(足利市・一級河川名草川)

⑤ 効率性向上による長期的コストの低減

【3部1局】 電子入札や電子納品等の実施

インターネットを利用した電子入札や工事資料等を電子納品したことで、発注者と入札参加者の事務効率化や入札の際に要する移動経費で縮減が図られました。